



せい しん つう しん
聖 心 通 信

札幌聖心女子学院

校長 阿部益太郎

第9号 2018年11月30日

〒064-8540 札幌市中央区宮の森2条16丁目10番1号
 URL <http://www.spr-sacred-heart.ed.jp>

TEL 011-611-9231 / 011-676-7667(職員室直通)
 FAX 011-612-0980

12月15日(土)、本校体育館でクリスマスコンサートを行います。お誘い合わせの上、ぜひご来場ください。皆様と一緒に主のご降誕をお祝いできれば幸いです。

12月の行事予定



	行事	お弁当
1(土)	高1・高2 GTEC 高3 家庭学習 父の会聖書サークル(16:00~17:30)	※
2(日)	コーラス部 北26条教会クリスマスチャリティーコンサート出演	
3(月)	クリスマスプラクティス(~12/13)	要
4(火)	校内漢字コンテスト②(1校時) 母の会聖書サークル(10:30~、Sr.田口) 中学 芸術鑑賞(5~7校時)	要
5(水)	中2-G グローバルスキルズ(7校時) 中2-S ソフィアサイエンスクラブ(7校時) 課題研究ミーティング⑦	要
6(木)	中学朝礼(歌練習) インターナショナルデイ(7校時交流会)	要
7(金)	高校朝礼(高校朝礼) 母の会パン販売 クリスマス歌練習(5~7校時)	要
8(土)	オーストラリア姉妹校短期留学生来札(~12/23) クリスマスリハーサル(関係者、午後)	※
9(日)		
10(月)	クリスマス歌練習(5~7校時)	要
11(火)	全校朝礼(姉妹校200年祭報告、歌練習)	要
12(水)	中2-G グローバルスキルズ(7校時) 中2-S ソフィアサイエンスクラブ(7校時)	要
13(木)	中学朝礼(歌練習) クリスマス歌練習(5~7校時)	要
14(金)	校内クリスマスコンサート	要
15(土)	クリスマスコンサート公開日、入試個別相談 NY国連研修保護者会	※
16(日)	寄宿クリスマス会	
17(月)		要
18(火)	全校朝礼 母の会聖書サークル(10:30~、Sr.井出)	要
19(水)	中2-G グローバルスキルズ(7校時) 中2-S ソフィアサイエンスクラブ(7校時)	要
20(木)	終業日 帰省日	不要
21(金)	冬季休業(~1/17)	
22(土)		
23(日)	天皇誕生日	
24(月)	振替休日	
25(火)		
26(水)	うるかむはうす炊き出しボランティア	
27(木)		
28(金)		

学校閉鎖(12/29~1/3)

※ 必要な人は昼食をご用意ください。

梅干し弁当募金

11月21日(水)に行われた梅干し弁当募金では、**総額 46,991 円**を寄付していただきました。日本骨髄バンクにお送りし、骨髄移植を必要とする患者の方々への支援に役立てていただきます。ご協力ありがとうございました。

Congratulations!!

- ◎ 第64回札幌市読書感想文コンクール
佳作 高1-S 上山 舞唯さん
- ◎ 第64回青少年読書感想文全道コンクール
北海道教育委員会教育長賞
高3-S 瀧田 小麦さん
北海道高等学校 PTA 連合会長賞
高3-S 須藤 あまねさん
優秀賞 高3-S 大久保 絵未さん
- ◎ 平成30年度「障害者週間のポスター」
中学校の部 (札幌市主催)
審査員賞 中1-S 西 恵里奈さん
- ◎ 第5回全国高校ビブリオバトル北海道大会
優勝 高3-S 大久保 絵未さん
- ※ 来年1月に東京で開催される「マイナビ全国高校ビブリオバトル決勝大会」に出場します!



原画デザイン：高2-S 池上 真歩さん

国際文化ミーティング「モンゴル紀行」



11月14日(水)、札幌医科大学名誉教授の松嶋範男先生を講師にお迎えして、国際文化ミーティングが行われました。先生がモンゴル滞在中に経験したことや見聞きしたことについて、モンゴルの歴史・風土についても交えながら教えていただきました。文化の異なる外国に長期滞在する際の心構えや注意しておくべきことについて、伺うことができました。



今月の聖句 一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。

ヨハネによる福音書 12章 24節

聖フィリピン・デュシェーンがレベッカ号で新大陸アメリカに渡ってから200年を記念する昨年秋からの「レベッカ・モーメント」は世界中の聖心の生徒がお祝いする11月18日の聖女の祝日に幕を閉じました。当日、国内の全姉妹校の生徒代表と引率、同窓会役員、聖心会員が集まって聖心女子大学で、ごミサ、シンポジウム、お茶会でお祝いしました。

本校からも阿部校長先生はじめ引率の先生と中高姉妹会役員が出席しました。ミサでは、冒頭のヨハネ福音書の朗読に、神の呼びかけのままに、自ら全力で建て直した修道院と学校を聖心会に差し出して入会し、48歳で慣れ親しんだ故国フランスから船出し、苦難の連続の中で、あらゆる境遇の子どもたちの教育を目指して開拓地の土となり、多くの実りを生んだ聖女の生涯をあらためて思いました。その生き方が種となり、深いところで、聖心の教育に命を与え、方向を示しています。以下は出席した生徒たちの分かち合いです。

「聖フィリピン・デュシェーンが、慣れ親しんだ環境を出て新大陸に行かれたから、聖心の教育が広まったことを思って感謝しました。」「ごミサは、みんなの心が一つになった特別な時間で、感動しました。」「シンポジウムでのそれぞれのお話を伺い、私も毎日の生活の中で、根っこを見つめる視線をもっと育て、深く考えたいと思いました。」「聖フィリピン・デュシェーンが神様の愛を届けたいと願われたことを思う時、9月の地震の時、通学生たちが自分たちも食糧が手に入りにくいのに、お水や食料を届けてくれたことを思い出し、聖女の想いが、私たちの中に生きていたと思いました。」「他の姉妹校の方々と『レベッカ・モーメント』の過ごし方を分かち合うことができ、それぞれ違うけれど心は一つだと感じました。」「シンポジウムでのお話はどれも想いがこもっていて、インターの生徒会長の英語のお話も大体の意味がわかり、心が伝わって、うれしかったことの一つです。」「姉妹校の皆さんと再会を喜ぶ上級生の姿に聖心のつながりのあたたかさや深さを感じました。高校では国内、国外でたくさんの交流の機会があるので、楽しみです。」

「お茶会に皇后さまがおいでになり、両陛下が胆振日高地震の被災地厚真においていただいたことに感謝申し上げます。『皆さんの色々な活動のことは、よく聞いていますよ。』とおっしゃってください、とても感激しました。」「皇后さまから未来に向けてのお言葉を頂いたので、これから未来に向けて何ができるか考え、取り組んでいきたいと思います。」「ほんとうに恵みの時でした！」一人ひとりの喜びのうちに、レベッカ・モーメントの季節は巡り、また新しい種が播かれました。 [チャプレン Sr.田口保子]